



## 読書の季節を楽しみましょう

秋が一段と深まってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？慌ただしい夏と違い、秋の夜長、ソファにゆったりとしながら静か～な空間で本を読む！なんていいですよ。

さて、明日から読書週間が始まります。今年の標語は「どうしていつも忙しいのかしら～」と感じている方にぴったり『ホッと一息、本と一息』です。

皆様が本を選ぶ時の参考にしていただければと、ほんの一部をご紹介します！

### ❖ 019 読書

図書館にある本の背にラベルが貼ってありますが「019」を探してみてください。この数字のジャンルは「読書・読書法」です。その言葉どおり読書の効能とか人生と読書、読書習慣が身に付く方法など、読書についての根本的な点を取り扱っている「本」が並べられています。その本棚（書架）から4冊の本を選んでみました。

・「わたしの本棚」 中江 有里 著

著者が今までに読んだ部屋の壁一面の本棚の中から、大切な転機を、あるいは危機を救ってくれた24冊について綴っています。心揺さぶる1冊が見つかると思います！中江さんは、女優でコメンテーター、作家として活躍し、芸能界きっての読書家として知られています。

・「本を読む人だけが手にするもの」 藤原 和博 著

本書では、あなたは「なんで、本を読んだほうがいいのか？」という質問に、どう答えるのか？本を読むと、何が得か？ 読書とは「他人の脳のかげら」を自分の脳につなげること！また、人生に役立つ読書や正解のない時代を切り拓く読書。本嫌いの人でも読書習慣が身につく方法、など「人生における読書の効能」について熱く語られています。そんな著者は、リクルート社で初のフェロー（企業・大学での特別研究員）や皆さんご存じの東京都で初の民間校長を務め、「よのなか科」という大人気の特別授業やベストセラー作家で知られています。巻末に「ビジネスパーソンに読んでほしい本」「学校では教わらない現代史を学ぶ本」「子を持つ親や子どもといっしょに読みたい本」などおすすめ本も紹介しています。

・「答えはすべて本に書いてある」 川上 徹也 著

著者の言葉を借りると、「人はいろんな悩みを抱え、とことん考えたり、人に相談したり、スマホで検索して答えを探したり。でも、もっと有効な方法は、本を読むこと。本には数々の悩みと、その対処法が書かれていて、様々な職業の人が、様々な立場で、様々な問題に遭遇し、たくさん悩みながらやっと辿り着いた答えの記録

が『本』である」と。あまり本を読まない人でも気軽に読めるものを108冊紹介しています。もしかしたら、あなたにとって生涯の師や友となるような本と出逢えるかも！

・「子どもと一緒に読みたい絵本」

全国100軒の絵本専門店と書店の児童書担当者たちが、冒険とファンタジーの絵本、知的な関心を高める絵本、仕掛け絵本&アートブックなどの中から子どもたちに読んでほしい絵本を18のテーマ別に紹介しています。素敵な図書館や小説家、タレントによるエッセイも収録されています。

最後に市立図書館では大人向け・子ども向け用に図書のテーマ展示をしています。図書館巡りもおすすめです！

❁花矢図書館「読書週間」イベント。そして、日常のカウンター

11月2・3日の両日、花岡地区産業文化祭参加事業として花岡保育所園児たちによる読書感想画展を花岡公民館で開催します。合わせて11月2日より保存期間の過ぎた雑誌や受け入れしていない寄贈図書など、花矢図書館においてプレゼントいたします。どうぞおいでください。

地域図書館の強みでしょうか？カウンター越しに、お客様の「おもしろかった本のお話」（帯より上手い！）を伺い、「あー、読みたくなった〜」と思いながら、他のお客様にPRしているわたしです。

（花矢：小）